

仲間の声届けます



自粛生活の中…必見！！
～暮らしの知恵と工夫～
私たちこんな風に乗っています！

・1人暮らしだし、不安やストレスでしんどい。外出もなかなかできないし、TVばかり観ている。
(ぶらっと Oさん)

・作業所でスタッフさんに塗り絵のプリントをもらい、毎日時間を忘れるほど塗り絵に没頭している。
(つばめ工房原 Sさん)

・こんな状況だけど、閉じて考えずに、開いた考えを持つように過ごしている。
(オアシス Mさん)

・毎日コロナウイルスの報道ばかりで、疲れて、しばらくSNSなども見ないように過ごしている。
(ぶらっと Yさん)

・キーボードを購入し、演奏の練習を始めた。3曲くらい弾けるようになった。嬉しい。
(つばめ工房原 Kさん)

・今は断捨離を頑張っている。コロナが収束したら早く息子を映画館に連れて行ってあげたい。
(ピアつばめ Iさん)



長引く自粛生活で、疲れやストレスをため込んでいる方も多いでしょう。ここでは、利用者の方々から寄せられた今の率直な思いや、前向きになれる希望を感じる暮らしのアイデア等をご紹介します。

・人にもうつさないように消毒など頑張っている。早くピアつばめのメンバーたちと話がしたい。
(ピアつばめ Fさん)

・資格取得の勉強を始めた。ただ資格試験自体が、未定になったので困った。
(つばめ工房原 Mさん)

・できるだけ、デイケアに通って、生活のリズムを整えるように工夫している。
(ぶらっと Mさん)

・家族と自宅に居ることが増え、皆で食事を作って楽しく過ごせた。家族の絆も深まったように思う。
(つばめ工房原 Sさん)

・大変な状況だけど、毎日お化粧をしたり、身だしなみを整えて過ごすようにしている。
(ぶらっと Eさん)

・作業所の閉鎖前は様々な意味で充実感があつた。自粛中は悪いことばかりではなく、日々の作業で疲れてしまっていた分、リラックスして過ごすこともできている。しかし、早くコロナが収束することを心から願っている。早く作業所に復帰したい。
(ピアつばめ Hさん)

《編集後記》今回、特別号をお引き受けした際、最初に思ったのは、「こんな時だからこそ、少しでも皆で希望を分かち合えるような紙面にしたい」また、「利用者さん、つばめ福祉会を活気づける一助となれば」ということでした。まだまだ予断を許さない状況ではありますが、私たちはコロナには負けません。“チャンスとピンチは紙一重”の言葉がありますが、今回の紙面を読む中で、ピンチをチャンスに変える力が、つばめ福祉会にはあると確信しました。勇気と力と連帯で、この苦境を乗り越え、利用者さんと共に明るい未来を切り拓いていきましょう。(ぶらっと：森田)

編集：つばめ福祉会 編集委員会責任者 鷹尾和顕
発行：九州障害者定期刊行物協会

〒814-0021 福岡市早良区荒江2-8-6
〒812-0054 福岡市東区馬出2-2-18
電話：(092)753-9722 FAX：(092)753-9723
購読料1部 100円(会費を含む)

QSK つばめ通信



2020年 特別号

〈社会福祉法人つばめ福祉会〉 <http://www.tsubame-fukuoka.jp/>

- 法人本部 〒814-0021 福岡市早良区荒江2-8-6 Tel092-400-7110
- ぶらっと（地域活動支援センターI型） 〒814-0021 福岡市早良区荒江2-8-6 Tel092-400-7132
- つばめ工房 原作業所（就労継続支援事業B型） 〒814-0022 福岡市早良区原3-18-15 Tel092-821-4055
- ピアつばめ（就労継続支援事業B型/生活訓練事業） 〒814-0021 福岡市早良区荒江2-18-25 Tel092-407-9641
- 喫茶・レストラン オアシス（就労継続支援事業B型） 〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-5-1 あいれふ1階 Tel092-713-3484
- 西区第1障がい者基幹相談支援センター 〒819-0002 福岡市西区姪の浜4-22-31 ヌメルスIII 30号室 Tel092-885-5060



通所利用休止に至る思いと、そこから見えたもの



社会福祉法人つばめ福祉会
理事長 鷹尾和顕

平素より、当法人の活動にご理解ご支援を賜り、誠にありがとうございます。
今年は冬から春にかけて、全国で新型コロナウイルスが猛威を振るい、福岡県におきましても4月7日に緊急事態宣言が発令されました。それを受けつばめ福祉会では、法人開設後初めて、「つばめ工房」「ピアつばめ」「オアシス」「ぶらっと」の4施設の通所利用休止を決定致しました。利用者さんとご家族の皆様には大変ご不便をおかけ致しました。

利用者さんにとって日頃通所している施設は、居場所・仲間・楽しみ・生活リズム・収入など多くの要素を含む生活の基盤となる場所であると理解しておりますので、今回の決断は大変心苦しいものでした。しかし全ては命あってのことです。私たちが一番恐れた点は、コロナウイルスは潜伏期間があり、注意をしても誰かが知らないうちに感染源となるリスクがあること。利用者さんやご家族には基礎疾患をお持ち方や高齢の方が多く、取り返しのつかないことになる可能性があるということでした。

通所利用休止期間中は、利用者さんが体調を崩さないよう、職員は電話や訪問、在宅ワークの提供等々の代替支援を行って参りました。具体的な内容は次ページ以降の事業所紹介に記載がございますが、職員たちも制限された中で工夫し実践したことが、支援の幅を広げることにも繋がったようです。また仮に第2波・第3波が来た場合にも、スムーズに支援を行える準備ができたと思えます。

5月14日に福岡県の緊急事態宣言は解除され、当法人の4施設におきましても5月18日より順次通所利用の再開を始めました。私たちが利用者さんと会えることが本当に嬉しく、利用者さんの存在の大きさを感じると同時に、何気ない日常の有難みを痛感致しました。またコロナウイルスを通して、利用者さんと職員が共に協力し施設を作り上げていくという施設運営の原点にも思いを馳せる機会となりました。

この大切な日常を続けていく為にも、今後は政府が示す新しい生活様式に則り、皆で感染予防対策を徹底しながら事業運営を行って参ります。まだまだ油断できない状況が続くと思われまますので、皆様におかれましても、ご自愛専一にお過ごし下さい。

つばめだより

各施設から

近況のご報告

今回は、本来なら「SWALLOW 2020年夏号」を発行する予定でしたが、第1面の鷹尾理事長の挨拶にもありましたように、このような特殊な状況の中、いち早く皆様に、私たちつばめ福祉会の現状と方針をお伝えすべきと判断し、「特別号」として例年より早い発行をさせていただきました。

この第2,3面では、通所を一時休止した4施設と、事業を継続した基幹相談支援センターが、どのような感染防止対策や取り組みを行い、皆様をお迎えする準備をしているか等の特集としてご紹介し、少しでも安心し、希望を感じて頂けたらと思います。



つばめ工房 原作業所

4月15日より、つばめ工房においてもメンバーさんが一堂に会する来所利用が休止となりました。その間、メンバーさんが体調や生活のリズムを崩さないよう、また不安を抱え込まないよう、職員は日々電話や訪問による代替支援を行って来ました。

電話でメンバーさんの声や思いを聴いていると、つばめ工房が皆さんにとっていかに大切な存在であるかを実感すると共に、職員も皆さんの存在の大きさを改めて感じる機会となりました。

また、自宅待機中、メンバーさんの中には新しい事に挑戦したり、趣味を見つけた方もいるようで、私達もメンバーさんの新たな一面や才能を発見できました。

やはりメンバーさんの喜びが、何よりも私達のエネルギーになります。

在宅ワークできる方は、ペロルさんの了解を得て、ローズウィンドウ枠の削り作業を行ってもらいました。皆さん仕事がある事が何より嬉しいようで、ペロルさんには、本当に感謝しています。



在宅ワークの成果

電話での体調確認中

ピアつばめ

新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、一時休止していたピアつばめが再開する事となりました。これも皆さんが周囲への思いやりの気持ちを持ち、拡大防止に努めて下さったおかげだと思います。

メンバーさんにおかれましては、作業所が休止の間は、急に日常が変わってしまったことへの不安や未知のものへの恐怖など、辛い思いを抱えて過ごされていたことと思います。

このような状況下でも、自身ができる事を常に考え、行動されているメンバーさんの声を聴き、職員一同、勇気を頂いて日々を過ごしていました。



手を洗おう

うがいしよう

消毒しよう

まだまだ、新型コロナウイルスに対する不安や恐怖が消えたわけではありません。しかし、少しでもそのような思いを軽減できるように、ピアつばめでも手洗い消毒の徹底や、三密を避けた工夫を考え、拡大防止に努めて参りますので宜しくお願いします。

コロナが収束したら、我慢をしていた分、皆で沢山外出もしたいし、美味しい物も沢山食べに行きたいですね。そのような日まで、お互い身体に気を付けて過ごしていきましょうね。穏やかな日々が一刻も早く訪れる事を職員一同心から願っております。



喫茶・レストラン オアシス

休所中は、スタッフが定期的な電話連絡や訪問を行ない、メンバーさんの体調確認や休所に伴う不安解消のための相談支援などをしました。

また、工賃支給などに合わせて通所日を設定し、個別面談やメンバーさん同士の情報交換の場を設けました。「メンバー同士で話すことが、すごく大事なことに改めて気づいた」「みんなの元気な顔が見られて良かった」といった言葉がメンバーさんから聞かれました。



再開後も、検温や手洗い、消毒など感染防止に努めながら、メンバーさん、スタッフの健康管理に気を付け、お客様に安心してご来店頂けるようにしていきたいと思ひます。

※営業時間 10:30~16:30 定休日:月曜日(祝日は営業)

西区第1障がい者基幹相談支援センター

基幹相談支援センターでは、新型コロナの影響により、訪問や面談の制限、会議や研修の中止等、様々な変化がありました。そのような状況の中、様々な事業所との情報交換や、必要な物資のやり取り等を通じ、緊急事態の際に業種を超えて協力し合えるネットワークの大切さを身に染みて感じています。

また、相談される方々と顔を合わせる場面が減った事、在宅勤務の導入により職員間で顔を合わせる場面が減った事で、支援における「顔を見て話をする大切さ」を改めて実感しました。

様々な制限が続き大変な思いで一杯ですが、制限されたからこそ、これまで見えなかった事が見えてくるという事もあります。そのような気づきを大切にしながら、支援を続けていきたいと思ひます。



ぶらっと

ぶらっとでは、5月25日から時間を短縮して館内の利用を再開致しました。皆さんと再会することができ、職員一同、大変嬉しく思っております。

利用に際しては、皆さんの安全を第一に考え、一定の条件を設けています。詳細は、ぶらっと号や館内のホワイトボードにも記載しておりますので、ご確認の程宜しくお願ひ申し上げます。



花々とともに皆様のご来館を職員一同、お待ちしております

休館中、ぶらっとでは、電話相談(通称「ほっとする電話」)の対応を中心に行って来ました。通常は、午後のみですが、自粛生活を余儀なくされる中、疲れや孤独感、ストレスを抱える利用者の方々も多く、そうした方々に「少しでも寄り添いたい」との思いから、午前から開設時間を繰り上げ対応して来ました。この度、皆さんから伺った貴重なお言葉は、決して無駄にする事がないよう、ぶらっとの運営に反映させていきたいと思ひます。今後感染収束の対策や、皆さんが安心してくつろげる空間造りにより一層努めると共に、利用者さん主体の活動等のお手伝いを行って行けたらと思ひます。宜しくお願いします。